

明治の文化—報道と文学

明治時代に登場した日刊の新聞は、独自の主張をもって出来事を報道し、国民への政治思想の浸透に一役買った。また、新聞に掲載された文芸作品は、近代文学の育成と普及にも貢献した。文学は、時期ごとの文壇の流行に応じて題材・主張を変え、絶えず生み出された。作家は、時に理想を、時に暗い現実を表出し続けた。

○報道活動

●日刊の新聞

1880~90年代、自由民権運動・条約改正などは、世論に賛否が問われた。

→結果、政治評論中心の新聞⁽¹⁾ _____ が相次いで創刊された。

⇒(1) は、政治思想を生み、また、近代文学の育成にも貢献した。

◇日本最初の日本語の日刊新聞は、1871年に創刊された『⁽²⁾ _____』



江戸時代の瓦版の伝統を継ぎ、娯楽中心の新聞⁽³⁾ _____ もあった。



図1 横浜毎日新聞

●定期刊行の雑誌

明治時代、次の雑誌が創刊され、様々な分野の紹介をおこなった。

『⁽⁴⁾ _____』…1874年、洋学者の啓蒙的思想団体⁽⁵⁾ _____ の機関誌

『⁽⁶⁾ _____』…1887年、徳富蘇峰らの団体⁽⁷⁾ _____ の機関誌

『⁽⁸⁾ _____』…1888年、三宅雪嶺らの団体⁽⁹⁾ _____ の機関誌

『⁽¹⁰⁾ _____』…1895年創刊の総合雑誌で、高山樗牛⁽¹⁰⁾ を主幹に日本主義を主張

『⁽¹¹⁾ _____』…⁽¹²⁾ _____ ・島崎藤村⁽¹²⁾ が創刊した雑誌で、ロマン主義文学の拠点



図2 文学界

○文学

●戯作文学と政治小説

江戸時代の洒落本や滑稽本の伝統を継ぐ勧善懲悪中心の⁽¹³⁾ _____ と、政治思想を盛り込んだ⁽¹⁴⁾ _____ が書かれた。

<代表作家>

⁽¹⁵⁾ _____ …文明開化の様子に描き、代表作は『⁽¹⁶⁾ _____』

⁽¹⁷⁾ _____ …立憲改進黨党员で、代表作は政治小説『⁽¹⁸⁾ _____』

東海散士⁽¹⁷⁾…政治小説『佳人之奇遇』で、各国の独立運動と憂国の情を描写



図3 『安愚楽鍋』の挿絵

●写実主義文学

1885年、⁽¹⁹⁾ _____ が『⁽²⁰⁾ _____』で西洋の文学理論を紹介して、日本の勧善懲悪的な文学観や政治小説を批判した。

⇒人情や世相をあるがままに描く作風⁽²¹⁾ _____ 主義が流行し、近代文学が始まった。

<代表作家>

⁽²²⁾ _____ …『⁽²³⁾ _____』を著し、話し言葉に近い文章言文一致体⁽²²⁾ を先駆

尾崎紅葉⁽²²⁾…『⁽²⁴⁾ _____』を著し、また、山田美妙⁽²³⁾らと文学結社硯友社⁽²⁴⁾を組織

⁽²⁵⁾ _____ …東洋哲学を基盤に、『⁽²⁶⁾ _____』で理想的な人物像を具現



図4 『小説神髓』

●ロマン主義文学

日清戦争前後、合理性に対する感情の優位を強調し、
空想・恋愛を重んじる作風⁽²⁷⁾ _____ 主義が盛んになった。

<代表作家>

- (28) _____ …軍医としても活躍し、代表作は処女作『⁽²⁹⁾ _____』
(30) _____ …代表作は、東京下町の女を描く『⁽³¹⁾ _____』『にがりえ』
(32) _____ …詩集『⁽³³⁾ _____』を発表、また、
日露戦争中に「君死にたまふこと勿^{なか}れ」を雑誌『明星』に掲載
泉鏡花…尾崎紅葉の弟子で、代表作は高野山の旅僧を描く『高野^{こうや}聖^{ひじり}』
島崎藤村…代表作は処女詩集『若菜集』で、後に自然主義に移行



図5 森鷗外



図6 島崎藤村

●自然主義文学

日露戦争前後、フランス・ドイツの影響で、人間が隠す黒い欲望や暗い現実を、
あるがままに描く作風⁽³⁴⁾ _____ 主義が盛んになった。

<代表作家>

- (35) _____ …ロマン主義の『⁽³⁶⁾ _____』が代表作で、晩年に自然主義に移行
(37) _____ …代表作は、内弟子芳子への欲情を描く『⁽³⁸⁾ _____』
(39) _____ …1906年刊の『⁽⁴⁰⁾ _____』で被差別部落出身の青年教師の苦悩を描き、
ロマン主義から自然主義へ移行
(41) _____ …代表作は、貧窮の中での生活感情を詠う歌集『一握^{いちあく}の砂』



図7 石川啄木

●反自然主義文学

明治時代末から大正期、自然主義に反発する、あるいは距離を置く立場があった。

<代表作家>

- (42) _____ …知識人の内面生活を国家・社会との関係で捉え、
代表作の『吾輩^{わがはい}は猫である』では猫に託して自身の社会観を表現
森鷗外^{おうがい}…晩年はロマン主義から離れ、歴史小説『阿部一族』などを発表



図8 夏目漱石

●その他

<人道主義・戦地への思い>

徳富蘆花…徳富蘇峰の弟で、人道主義（人間愛からの人命尊重）に立ち、
1898～99年、『不如^{ほととぎす}帰』を『国民新聞』に掲載

- (43) _____ …1904年、『明星』で反戦長詩「君死にたまふこと勿^{なか}れ」を発表
大塚^{くすおこ}楠^(ななおこ)緒子…1905年、『太陽』で戦地の夫を思う長詩「お百度^{ひやくどもう}詣で」を発表



図9 徳富蘆花

<俳句・和歌>

- (44) _____ …病床にありながら、俳句雑誌『ホトトギス』創刊に協力し、
写生に基づく俳句の革新と万葉調和歌の復興に尽力

高浜^{きよし}虚子…(44)の門人で、後に『ホトトギス』を主宰

伊藤^{さちお}左千夫…(44)の門人で、『土』の作者⁽⁴⁵⁾ _____ と短歌雑誌『アララギ』を創刊



図10 正岡子規